

2020年度 地方創生推進交付金事業評価シート

事業名	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略 (徳島県・鳴門市・徳島市・小松島市・美馬市・三好市・海陽町・つるぎ町・東みよし町 広域連携事業)																	
事業開始年度	2017年度	事業終了(予定)年度	2020年度	担当課	まるごと三好観光戦略課													
事業の目的	徳島県の延べ宿泊者数は近年増加傾向にあるものの、平成22年以降4年連続で全国最下位であり、外国人宿泊者数においても近年、急増しているものの四国他県に比べると人数は依然として少ない現状にある。本県には、「阿波おどり」や「阿波藍」などの「あわ文化」や「四国八十八箇所霊場と遍路道」、徳島の地理・魅力を活かしたアニメイベント「マチ★アソビ」、「食と農の景勝地」や「世界農業遺産」国内候補地に選定された「にし阿波」の歴史文化、県南の豊かな自然がもたらすアウトドアフィールドと食の恵みなど、外国人観光客を惹きつける資源を多く有しており、急増する外国人観光客の多様なニーズに対応した誘客コンテンツの開発や情報発信、専門的人材の養成等の受入体制の整備など、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを進めることが課題となっている。課題に対して、県全体として、県内市町村や近隣府県、関係事業者と連携・協働の下、県東部と県西部を結ぶ広域周遊ルートの整備や県内各圏域の特色や魅力を活かした着地型旅行商品の開発と事業推進主体の形成支援、県南部地域の新たな誘客コンテンツの開発、1年を通じた誘客コンテンツの開発と定着化等に取り組み、戦略的に情報発信していくことを目的とする。																	
事業内容	西部2市2町(三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町)は、一般社団法人そらの郷(地域連携DMO)と連携して、「食と農の景勝地」や「世界農業遺産」に選ばれた「にし阿波」の魅力を活かした体験型教育旅行の誘致や農家民宿等の誘客促進、外国人観光客の受入拡大に向けた情報発信・人材育成に取り組む。																	
事業費(単位:円)		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度											
※三好市分	計画額	-	-	10,269,000	10,333,000	15,000,000	20,718,000											
	実績額	-	-	9,724,993	10,347,773	15,350,108	20,857,782											
	交付金充当額	-	-	4,556,130	5,166,000	7,500,000	10,359,000											
重要業績評価指標(KPI)	KPI①	5年間の延べ宿泊者の増加人数(徳島県)	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度									
			目標値	-	-	285	300	310	320									
			実績値	-	-	230	222	257	145									
	達成度	-	-	C	C	C	D											
	KPI②	5年間の外国人延べ宿泊者の増加人数(徳島県)	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度									
目標値			-	-	7	8	12	13										
実績値			-	-	10	12	13	2										
達成度	-	-	A	A	A	D												
KPI③	5年間のクルーズ来県者の増加人数(徳島県)	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度										
		目標値	-	-	11,700	15,000	17,000	18,000										
		実績値	-	-	10,652	10,242	21,621											
達成度	-	-	B	D	A													
KPI④	観光消費額(徳島県)	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度										
		目標値	-	-	-	-	1,157	1,172										
		実績値	-	-	-	-	1,072	736										
達成度	-	-	-	-	B	D												
<p>数値目標及びKPIの達成度</p> <table border="1"> <tr> <th>達成割合(%)</th> <th>達成度</th> </tr> <tr> <td>100%以上</td> <td>A(目標を上回る)</td> </tr> <tr> <td>90%以上～100%未満</td> <td>B(概ね目標どおり)</td> </tr> <tr> <td>70%以上～90%未満</td> <td>C(目標をやや下回る)</td> </tr> <tr> <td>70%未満</td> <td>D(目標を大きく下回る)</td> </tr> </table>									達成割合(%)	達成度	100%以上	A(目標を上回る)	90%以上～100%未満	B(概ね目標どおり)	70%以上～90%未満	C(目標をやや下回る)	70%未満	D(目標を大きく下回る)
達成割合(%)	達成度																	
100%以上	A(目標を上回る)																	
90%以上～100%未満	B(概ね目標どおり)																	
70%以上～90%未満	C(目標をやや下回る)																	
70%未満	D(目標を大きく下回る)																	
当該年度の成果と課題	<p>【そらの郷事業】</p> <p>①にし阿波体感プログラム「あわこい」の開催 にし阿波において、滞在交流型観光の推進、観光まちづくりの自発的な活動の促進を図るため、地域住民との交流、地域の魅力を再発見していただくことに重点をおいた、自然、歴史、文化、伝統芸能、食、温泉等様々な地域資源を活かした体感プログラムを展開。コロナ禍にあって、2021年1月23日～2021年2月28日の期間中、にし阿波全体で69プログラムを企画し、588人(前年830人)の参加者があった。</p> <p>②国内旅行泊(ツーリズムEXPOジャパン)への出展 沖縄で開催された世界最大級の国内旅行博「ツーリズムEXPOジャパン2020」に出展し、ブースでの観光PRや商談会での売り込みを行った。</p> <p>③体験型教育旅行関係営業活動・人材育成研修等の実施 2市2町をエリアとする体験型教育旅行(中学校、高校の修学旅行等)の継続かつ受入拡大のため、独自の新型コロナウイルス対策の確立と実効性の高い安全安心な受入態勢整備のため、受入家庭・事務局職員への人材育成を実施した。また、旅行会社等への営業活動、視察受入、ニューノーマルな体験プログラムの造成・販売等の業務を実施した。</p> <p>【世界農業遺産事業】</p> <p>①雑穀振興大会及びシンポジウムの開催 地域の食料を支えた雑穀の価値とこれからの雑穀振興政策を考えた雑穀振興大会の開催や、地域の方や地元の学生等による持続可能な社会に向けた取組や意見発表を行うシンポジウムを開催。</p> <p>②世界への情報発信 プロのカメマンが、世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証品の農産物や加工品の取材を行い、地域の魅力をInstagramで情報発信した。また、世界農業遺産紹介動画「にし阿波 開花し続ける集落」の外国語版を制作し、インターネット上の協議会YouTubeチャンネルで配信した。</p> <p>③ブランド認証品等の販売促進 インターネットを活用した販売推進アドバイザー事業を実施し、インターネット販売の勉強会や説明会といった全体的なサポートや意欲がある方の販売に向けた個々のサポートを行った。また、認知度向上及び戦略的情報発信を目的としたパンフレットを作成した。</p> <p>④6次化商品の開発 にし阿波を代表する作物である各地の雑穀をブレンドし、商品として販売するための調査や試作品の開発を行った。また、アジア最大規模の国際食品・飲料展示会に出展し、ブランド認証品のPRを行った。</p> <p>⑤ガストロノミーツーリズムの推進 地域産の雑穀を使用した料理教室の開催や食の専門家を招聘し、現地実習を実施した。</p> <p>⑥SDGs教育 世界農業遺産の内容や意義を、域内の子供たちに伝えるために、教育用マンガ、教員用指導ガイドを作成し、各市町が主導して出前授業や体験学習等を実施した。</p>																	
今後の取組	<p>【そらの郷事業】</p> <p>幅広い官民の関係者との合意形成、戦略策定、マーケティングマネージメント活動をはじめ、更なる高みを目指して、次の取り組みを行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、終息後の需要回復に対応できるよう活動を行う。</p> <p>・課題解決型のプログラムの導入や受入体制の充実、企業研修や大学ゼミへの拡大など、体験型教育・研修事業の推進を図る。また、受入家庭への感染防止に向けた注意喚起及び不安払拭、意欲低下の防止、終息後の反転攻勢に向けたセールスツールの製作及び遠隔セールスの実施、マーケティングに基づいた新規商品の造成、実施等を行う。</p> <p>【世界農業遺産事業】</p> <p>今後も地域ならではの「にし阿波の傾斜地農耕システム」を次世代に継承し地域活性化につなげていくため、地域住民や関係機関と一体となり以下のような施策に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物や加工品の高付加価値化に向け策定された「世界農業遺産ブランド認証制度」の推進 ・地域住民と交流し、農山村の暮らしを体感できる宿泊施設の拡充と受け入れ体制の強化 ・「にし阿波観光圏」SAVOR JAPAN(食と農の景勝地)と連携した、滞在型観光や地域の食文化と観光が融合した「ガストロノミーツーリズム」の推進 ・UJターン者や定年帰農者などのサポート体制整備による担い手の確保・育成 ・企業や学校との連携による人材の派遣などによる農地の保全 等 																	

2020年度 地方創生推進交付金事業評価シート

事業名	三好市全世代活躍コミュニティ創出プロジェクト事業																	
事業開始年度	2020年度	事業終了(予定)年度	2022年度	担当課	地方創生推進課 生涯活躍のまちづくり推進室													
事業の目的	移住はしないものの、地域貢献活動を希望する人材の活動や、地域の日常生活に利便性の向上につながる活動を促進する「シゴトプラットフォーム(コミュニティ)」づくりを行い、同プラットフォームを通じて、市内外の人材の多様な「つながり」を生み・育てるなかで、地域の産業やまちづくりの担い手(関係人口)へと移行を促し、さらに移住・定住へとつなげる。																	
事業内容	<p><1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業> 廃校舎を活用し、インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)を整備。これまで本市との接点が少なかった都市圏を中心とした大学生や循環型サテライトオフィス企業、都市部において働きながらも地方での兼業・副業を希望する「ダブルワーク希望人材」、さらには地元高校生等が短・中期的に宿泊(滞在)するなか、魅力ある仕事を検討し、創出を図るコミュニティ(場)の形成を目指す。</p> <p><2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> 都市部の企業と連携し、同企業に所属する人材らがテレワークやワーケーションなど多様な形で利用する住宅、シェアオフィスを整備するとともに、移動から滞在までの生活支援や地元企業等との交流、地域課題解決型能力開発などの固有の研究プログラム等を確立することで、都市部人材の循環的な利用を実現し、産業を中心とした関係人口の獲得を目指す。</p> <p><3.まちなか滞在促進事業> まちなか滞在を促進する「食文化を題材としたアクティビティ開発」に向けた実証実験を実施。取組を進める過程では、ラボでの滞在者(大学生・社会人・企業)やお試し住宅の利用者に企画等に参画してもらうとともに、持続的かつ継続的な取組となるよう、実質的なサービス提供を行う地域プレイヤーによるコミュニティの創出を目指して展開していく。</p> <p><4.福祉の足プロジェクト事業> 都市圏からの地方へ移住に際し自立した移動手段を有しない個人等の支援、さらには地域課題(高齢で、自立した移動手段を持たないため、社会との接点が減少することで生ずるフレイル)への対策や移住後の暮らしを支えることを目的に、外出支援(移動支援を含む)サービスの構築を行う。</p> <p><5.ヘルスアップステイ事業> 新たに本市に関係する人材の健康度の向上を図り、滞在を支えるための健康増進を図るコミュニティを形成する。</p>																	
事業費(単位:円)		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計											
	計画額	31,500,000	22,100,000	14,250,000	-	-	67,850,000											
	実績額	49,088,135	-	-	-	-	49,088,135											
	交付金充当額	15,174,000	-	-	-	-	15,174,000											
重要業績評価指標(KPI)	KPI①	市内外の多世代人材を対象とした、多様な形で地域活動が可能となるコミュニティへの参加者数	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	30	50	100	-	-	180									
			実績値	30	-	-	-	-	30									
			達成度	A	-	-	-	-	-									
	KPI②	コミュニティの担い手として活動する人数	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	15	25	50	-	-	90									
			実績値	16	-	-	-	-	16									
			達成度	A	-	-	-	-	-									
	KPI③	東京圏・関西圏を中心としたUIJターナー者数	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	210	15	25	-	-	250									
			実績値	227	-	-	-	-	227									
			達成度	A	-	-	-	-	-									
	KPI④		単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値				-	-	0									
			実績値				-	-	0									
			達成度				-	-	-									
数値目標及びKPIの達成度 <table border="1"> <tr> <th>達成割合(%)</th> <th>達成度</th> </tr> <tr> <td>100%以上</td> <td>A(目標を上回る)</td> </tr> <tr> <td>90%以上~100%未満</td> <td>B(概ね目標どおり)</td> </tr> <tr> <td>70%以上~90%未満</td> <td>C(目標をやや下回る)</td> </tr> <tr> <td>70%未満</td> <td>D(目標を大きく下回る)</td> </tr> </table>									達成割合(%)	達成度	100%以上	A(目標を上回る)	90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)	70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)	70%未満	D(目標を大きく下回る)
達成割合(%)	達成度																	
100%以上	A(目標を上回る)																	
90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)																	
70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)																	
70%未満	D(目標を大きく下回る)																	
当該年度の成果と課題	[成果] 事業の実施基盤となるコミュニティの創出、拠点づくりを図った。 <1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業> 廃校舎を活用し、大学生や循環型サテライトオフィス企業や地元高校生等が滞在拠点として「ウマバ・スクールコテージ」を整備等を行った。 <2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> 対象者を40歳以上としていたものを、都市部企業に所属する人材を中心とした全世代にシフト。都市部企業と本市の間に人材を循環させる関係性を構築する取り組みに方向転換することとし、都市部企業のニーズ等の把握を目的にマーケティング調査等を実施したほか、環境整備に向けた計画地の確保や基本設計を実施した。 <3.まちなか滞在促進事業> まちなか滞在を促進する「食文化を題材としたアクティビティ開発」に向けた実証実験を実施。取組を進める過程では、持続できる取組となるよう、地域プレイヤーらで構成する任意団体の創出を図った。 <4.福祉の足プロジェクト事業> 外出支援等を促す目的の魅力あるコンテンツづくりに必要なサービス等の提供者を発掘した。 <5.ヘルスアップステイ事業> 本市に関係する人材の健康度の向上を図り、滞在を支えるための健康増進を図るコミュニティを形成する拠点の組織体制づくりや計画づくりを行った。 [課題] 本事業は、市内外の人材の人流を創出する場の創出や仕組みづくりを進めているが、新型コロナ禍の影響を受け、人の往来そのものが制限され、都市部企業や交流する市民等との間での感染症予防対策等の対応が求められる。 都市部企業等の人材等を地方への循環を促し、地域貢献人材化へ転換するための、地域資源等を活かした固有の具体的なプログラムの構築や、具体的な仕組みづくりの手法が求められる。																	
	今後の取組	<1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業> ウマバ・スクールコテージを通じたプロジェクト型人材誘致の検討、実施等。 <2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> 施設整備及び移動・滞在・交流等の支援策の検討等。 <3.まちなか滞在促進事業> ウマバ・スクールコテージ利用者等を対象とした食のアクティビティの試行的提供等。 <4.福祉の足プロジェクト事業> 多世代交流の足を確立するための拠点づくりやシステム構築に向けた検討・試行的実施等。 <5.ヘルスアップステイ事業> ウマバ・スクールコテージ利用者等を対象とした健康度向上を図るヘルスツーリズムの検討・実施等。																

2020年度 地方創生推進交付金事業評価シート

事業名		三好市アウトドアスポーツのまちづくり事業																
事業開始年度	2020年度	事業終了(予定)年度	2022年度	担当課	まると三好観光戦略課													
事業の目的	本市では、観光をリーディング産業と位置づけ、これまで訪日外国人(インバウンド)観光客の誘客をはじめとする観光政策に注力している。一方で、現状、河川環境を生かした恒常的な観光産業では、自然環境を活かした宿泊施設など静的アクティビティが主流である一方、体験型などの動的アクティビティでは、個人を対象としたラフティング体験のみと、ラインナップ不足を生じている。2017年ラフティング世界選手権、2018年ウェイクボード世界選手権の開催により世界規模で競技大会を開催できる環境を周知でき、有効活用されてこなかった池田湖の水辺の環境が、河川環境、立地、動線など、他地域との優位性を確認でき、水辺を活用した本市固有の観光拠点として可能性を認識することとなった。本市固有の観光資源である池田湖を観光拠点化し、域外市場産業を確立させ、幅広いユーザーを取り込むことにより観光消費額の増加や、交流・関係人口の拡大へとつなげ、さらには将来的な移住者増を目指す。																	
事業内容	国内外に発信力のあるメディア(三好市ポータルメディア)を構築することで統一性のある地域ブランド化の向上を図る。また、東京ブランドを稼働させ、メディアの集中する東京を起点に情報発信することで、ライトユーザーの獲得につなげる。子供や若者を中心としたライトユーザーをターゲットとし、ウォータースポーツを気軽に楽しむソフト(ウォーターキッズクラブ、ウォータースポーツチャレンジ、エンターテイメントを加えた大会、イベント等開催支援)・ハード(拠点整備)の一体的な環境整備を図ることで、同ターゲットをファンやリピーターにつなげ、持続安定的な域外市場産業の形成と、雇用の創出を図る。																	
事業費(単位:円)		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計											
	計画額	46,592,000	39,540,000	43,107,000	-	-	129,239,000											
	実績額	38,356,782	-	-	-	-	38,356,782											
	交付金充当額	19,178,391	-	-	-	-	19,178,391											
重要業績評価指標(KPI)	KPI①	ウォーターキッズクラブおよびウォータースポーツチャレンジ(水の運動会)参加者数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	1,790	676	1,674	-	-	4,140									
			実績値	386	-	-	-	-	386									
			達成度	D	-	-	-	-	-									
	KPI②	大会・イベント等の参加者数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	3,550	2,190	160	-	-	5,900									
			実績値	539	-	-	-	-	539									
			達成度	D	-	-	-	-	-									
	KPI③	三好市ポータルメディア総インプレッション数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	750,000	800,000	1,200,000	-	-	2,750,000									
			実績値	10,906,207	-	-	-	-	10,906,207									
			達成度	A	-	-	-	-	-									
	KPI④	一人当たりの旅行消費額	単位	2020年度増加分(1年目)	2020年度増加分(2年目)	2020年度増加分(3年目)	2020年度増加分(4年目)	2020年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計									
			目標値	29,810	330	330	-	-	30,470									
			実績値	13,785	-	-	-	-	13,785									
			達成度	D	-	-	-	-	-									
数値目標及びKPIの達成度 <table border="1"> <tr> <th>達成割合(%)</th> <th>達成度</th> </tr> <tr> <td>100%以上</td> <td>A(目標を上回る)</td> </tr> <tr> <td>90%以上~100%未満</td> <td>B(概ね目標どおり)</td> </tr> <tr> <td>70%以上~90%未満</td> <td>C(目標をやや下回る)</td> </tr> <tr> <td>70%未満</td> <td>D(目標を大きく下回る)</td> </tr> </table>									達成割合(%)	達成度	100%以上	A(目標を上回る)	90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)	70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)	70%未満	D(目標を大きく下回る)
達成割合(%)	達成度																	
100%以上	A(目標を上回る)																	
90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)																	
70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)																	
70%未満	D(目標を大きく下回る)																	
当該年度の成果と課題	<p>新型コロナウイルス拡大の影響により、予定していたイベントなどは軒並み中止もしくは、縮小することになり、想定よりもかなり低い成果になってしまった。KPI①はウォータースポーツチャレンジが中止されたことの影響が大きい。ウォーターキッズクラブへの参加者は少ないものの続けて参加してくれる子供たちがいる。KPI②は、ウォータースポーツチャレンジ中止、ネイチャーフィールドゲームズ関連のイベント中止や規模縮小により、目標に届かなかった。KPI③は、想定以上の成果を得ることができた。SNSを通じてインプレッション数を伸ばしたのだが、ユーチューブの視聴によるインプレッションが最も多くの成果を得られた。KPI④は、緊急事態宣言発令による移動自粛など、旅行業は苦戦を強いられた。そのことが原因で予想を大きく下回る結果となった。</p> <p>KPIの実績を踏まえて、本年度においてコロナ禍におけるイベント実施の知見を多く得たことを活かして従来のイベント方式、イベントメニューを再考、参加者、来場者の限定、そして、感染対策を十分におこない、国の感染症対策にのっとり実施体制を強化して実施する。</p>																	
今後の取組	<p>全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、本年度のイベントを実施することは感染症拡大防止、社会通念的に困難であったが、本年度の様々な試みにより、市民、参加者から大会、イベントの実施について一定の理解が得られたことで、国の感染症対策を順守し、本年度は実施できる状況が出来ると考えている。</p> <p>なお、国の施策により国民へのワクチン投与等で、新型コロナウイルス感染症が収束していることが望ましいが、想定出来ない部分であるため、大会、イベントの実施日程を東京2020オリンピック競技大会以降に設定し、状況を注視しながら進める。</p> <p>また、収束していない場合は、国の感染症対策にのっとり、参加者、来場者の地域、人数の限定、イベント方式、メニューの再考、感染防止対策の徹底により、本年度の知見を十分に活かして安心、安全に参加できる大会、イベントの実施につなげていく。</p>																	